

2015年1月28日

博士学位論文審査報告書

大学名 早稲田大学
研究科名 人間科学研究科
申請者氏名 野田岳仁
学位の種類 博士（人間科学）
論文題目 地域の水資源をめぐる環境保全と観光まちづくり
——地域社会が取り組みはじめたアクアツーリズム——
**Conservation of Local Water Resources and Community Development
through Aqua Tourism**
論文審査委員 主査 早稲田大学教授 鳥越皓之 文学博士（筑波大学）（環境社会学）
副査 早稲田大学教授 柏雅之 農学博士（東京大学）（環境経済学）
副査 早稲田大学教授 武田尚子 博士（社会学）（東京都立大学）（人口論）

本研究は地域の水資源のあり方を、環境社会学のモデルを使いながら「観光まちづくり」という視点から分析したものである。本研究が目的としている課題はつぎのようなものである。すなわち、まちづくりの名の下に地域社会があらたに取り組みはじめている観光が、意外と観光客の自由や自発性というものを制限している事実がある。そのような制限にはなにか深い意味がありそうであり、それは地域のあたらしい価値の体系や社会組織構成とかかわっていきそうである。すなわち、この制限を生じさせている理由をあきらかにすることをつうじて、地域社会における地域資源管理を考えてみようというものである。この論文ではこの地域資源の具体的事例として水を対象にしている。水の保全は、環境政策にとってとても重要なものであり、水の地域資源の分析は、結果的には、水にかかわる環境政策を考えることになる。

そもそも近代観光は、観光客にできるだけ、自由や自発性をもたせる工夫をしてきた。本研究が関心をもっている観光は、その逆のベクトルとなっている。その結果、この研究は、オルタナティブな観光のあり方を模索しているものであるとも位置づけられよう。この研究では最初に、現在の観光にかかわる研究を以下のようにまとめることで、本研究の位置づけをしている。

すなわち、既存の研究によると、近代観光（現在、一般に行われている観光）においては、観光客が自由を享受できるように配慮がなされている。ただそれは、観光地である地元の犠牲によって成り立っていることがあきらかになった。そしてこの問題を解消するためには、地域の内発性を重視した観光への転換が研究者によって示唆されてきた。

ところが実証的な観光研究が進むにつれ、現場においては、すでにこれらの地域は観光圧力により、かなりのダメージを受けており、自発性に取り組もうにも、自分たちが描く観光の独自性を形成できるほどのエネルギーを保有していないことが多いことが分かった。

研究の第二段階として、このような事実をふまえて、研究史的には、ふたつの考え方が提案されてきた。すなわちひとつは、地域住民の「主体性」をどう形成するかという研究である。そこでは、観光の独自性をつくるためには、みずから積極的に地域文化をつくりあげようとする地域住民の主体性を肯定的にとらえ、それを鼓舞する立場である。これは、あえて言えば、第一段階の研究の住民の残されたエネルギーに注目する手法といえよう。

しかし、住民からは日常の生活と観光が乖離することに違和感が発せられていたことは否定できない。そのことによって、観光が停滞したり、地域の対立を引き起こす問題も生じていた。この事実をふまえて、二つ目の考え方が提案された。すなわち、それは地域住民がもつ「共有された価値観」（それは地域規範と言い換えてもよい）に注目する考え方であろうか。

この研究は、この第二段階のふたつ目の考え方を踏まえて、「地域住民規範」に注目して住民の価値基準を把握しようとしている。すなわち、言い換えれば、この研究は、地域社会が近代観光の根本にある観光客の自由を否定して観光に取り組む理由を、地域住民規範を通じて明らかにしていくという課題での研究であると言えよう。このような考え方にもとづいて、第二章以下では実証的な分析が展開されている。

この第二章では以下のような論理構成になっている。地域の水資源をめぐって地域社会に立ち現れる地域住民規範とはどのようなものであるのかを明らかにするために、あえて災害という極端な事例をとりあげている。すなわち、福島第一原発事故によって被災した福島県川内村の山の神水道組合を事例として、その分析をしているのである。そこでは、震災後、復旧にむけて、生活組織の合理化が進行している。それにもかかわらず、何ゆえに山水を利用するたいへん伝統的な水道組合を維持し続けることをこの地域では選んだのであろうか。その理由は、この水道組合が住民の生活を包括する生活組織としての受け皿に適合していたからである。事例の分析からみえてきた地域住民規範の特質は次の二点にまとめられるという。ひとつは、この組織が沢水の利用と管理を通じて、構成員の生産と生活にかかわる包括的な機能を担ってきたことである。二つ目は、構成員の平等性に配慮した組織であったことである。山の神水道組合は、構成員の平等性に配慮し、包括的機能を担ってきた生活組織であったからこそ、近代的な水道システムにとびつかないで、人びとは生活保全組織として、これからも存続させようとしていたという指摘がなされている。

第三章では秋田県と富山県の水場の事例がとりあげられている。この章では、地域住民規範が観光政策の現場でどのように位置づけられ、観光の独自性の形成とどのように関わっているのかを検討するとしている。この章の分析から明らかになったことは以下のとおりである。これらの洗い場が地域住民規範を観光政策に適用されたのであるが、それらは観光の独自性をつくりだしていたという。ここでみえてきた地域住民規範とは、二つあると本研究は指摘する。ひとつは、洗い場の管理組織は従来のコモンズ論ではあまり評価されてこなかったルースな組織であるということ。すなわち、複数の女性で管理をする世話役型の組織であった。二つ目は、地域住民は洗い場の利用と管理はセット（切り離せないもの）と考えているということである。生地地区ではこの二つの地域住民規範を理解し、観光政策にも適用させることで、観光の独自性をつくりだしていたことが明らかにされた。

つぎの第四章では、地域住民規範と観光客との関係に注目している。事例とした滋賀県の針江集落が取り上げられている。そこではカバタという個人の台所を見学ツアーに取り

組んでいたが、カバタが観光化されることをめぐって地域は葛藤を抱えることになったという。この課題に対して、観光に取り組む人びとは、地域住民規範を参照しながら相応しくない行動を自ら行わないように注意していった。そして注意すべきことは、観光用のカバタをつくらないという決断さえもしたことである。つまり、針江集落では結果的に観光客の要望には応えないことになった。これは一見、たいへんなことのようにあるが、しかし、観光客はこれをむしろ歓迎した。なぜかという、この地域住民規範に触れることで、針江集落のカバタが私有地に存在するたんなる湧き水なのではなくて、人びとの規範が介在する共有資源であることが理解できたからである。そのことが観光の独自性をつくっていたことをこの章では明らかにしている。

最後の第五章では針江集落の観光実践から地域住民規範の変容と再形成の過程を分析している。分析を通じて明らかになった地域住民規範とは、次のようなものであるという。すなわち、針江集落の水資源とは、第一に、貨幣換算できない資源であること、第二に、共同体規制が働く社会的資源であるということである。

最後は結論の章である。本研究で、取り上げられているのは、地域住民規範を参照しながら生活実践する人びとの姿だ。なぜ人びとは地域住民規範を参照する必要があったのだろうか、というのが本研究の大きな課題であった。その理由は、観光の対象が地域の水資源であったからである。事例としてとりあげてきた湧き水や洗い場といった地域の水資源は、生産や生活に必要なコモンスであった。だからこそ、人びとはそこに規範を介在させてきたのである。ただし、そこで立ち現れていた規範を過去の慣習の残存として捉えることは正しくないという。地域住民規範は、絶えず変化し、再形成されるものだからである。人びとは、生活条件に応じて立ち現れる地域住民規範に拘束されながら観光に取り組んでいたのである。

このことを理解したうえで、本研究ではつぎのように簡素に研究の問いに対して答えている。すなわち、地域社会の人びとが、なぜ近代観光の根本にある観光客の自由や自発性を制限した観光に取り組んでいたのかといえば、人びとは、拘束性の立ち現れる水資源を利用して観光に取り組んでいたからである。ゆえに、この規範を破る使い方をしてしまえば、地域社会の秩序が崩壊することになるからであった。それを避けるために、観光客の自由や自発性を制限した観光に取り組んでいたのである。つまり、地域の水資源を活用して観光に取り組むとすれば、立ち現れた地域住民規範を観光実践にも適用せざるを得ないのである。

なお、本論文が掲載された主な学術論文は以下のとおりである。

- [1] 野田岳仁: 観光のまちづくりのもたらす地域葛藤、村落社会研究ジャーナル、Vol. 20、No. 1, pp, 11-22 (2013)
- [2] 野田岳仁: コミュニティビジネスにおける非経済的活動の意味、環境社会学研究、Vol. 20 (2014) <印刷中>
- [3] 野田岳仁: 雪崩常習地住民の雪崩予測の技能、生活文化史、Vol. 66, pp, 48-64 (2014) 審査の結果、博士(人間科学)の学位を授与するに十分値するものと認める。

以上